小学校における交通安全指導ワンポイントマニュアル

令和元年5月1日

小学校１年生の歩行中の死者・重傷者は６年生の約3.6倍！新１年生を交通事故から守るには？

小学生の歩行中の交通事故（平成26年～30年）をみると、小学校１年生の死者・重傷者数は６年生の約3.6倍、死者に絞ると１年生は６年生の5.6倍に上ります。新１年生の「歩行者デビュー」のため、子供に教えられること、大人ができることを考えてみませんか？

インデックス

1. 小学生の交通事故の特徴は？
2. 事故防止のため子供に教えられることは？
3. 事故防止のため大人ができることは？

参考１　小学生の歩行中の事故　～全体の傾向～

参考２　道路を歩く時の合言葉「はひふへほ」

学校における交通安全指導のお願い

市では、交通安全指導は「心身の発達や個人の特性に即し、体験して身に付ける」ことが大切であることから、岡崎警察署と協力して各年代を対象とした交通安全教室を開催しています。さらに、「繰り返し」指導することも重要であることから、登下校時、朝の会や帰りの会、昼食時など学校生活の様々な場面で活用いただけるように、政府オンライン資料をワンポイントマニュアルとして編集しました。

日頃の見守り活動や児童への声かけにおいて、ご活用ください。

岡崎市安全安心課編集

（政府広報オンライン参照）

1. 小学生交通事故の特徴は?

学年別の死者・重傷者は１年生が最も多く、学年が進むにつれて減少する。

【歩行中児童の交通事故の特徴】

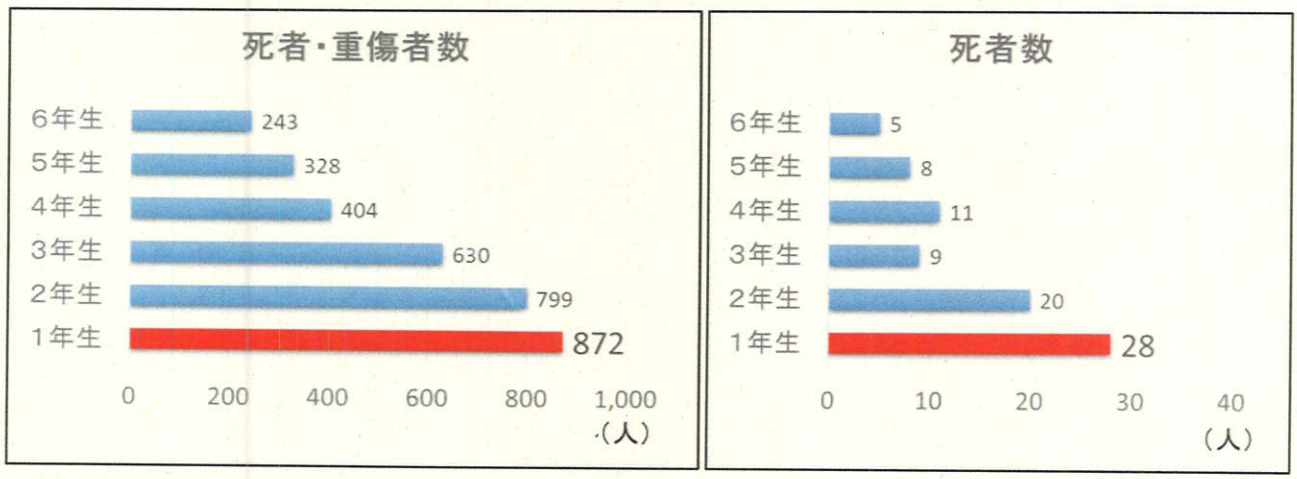
- 状態別では歩行中の事故が最も多い。（過去5年合計で約6割を占める。）
- 小学校1年生の歩行中死者・重傷者数は6年生の約3.6倍。
  （学年が低いほど歩行中の、学年が高くなると自転車乗用中の割合が高くなる。）
- 1年生の第1のピークは5月中・下旬（下校中及び私用）。
- 歩行中死者・重傷者の約4割は飛出しが原因。

警察庁が平成26年（2014年）～平成30年（2018年）に起きた交通事故を分析したところ、歩行中の小学生の死者・重傷者はこの5年間で5,776人に上ります。

学年別にみると（図1）最も多いのは小学校1年生の872人で、学年が進むにつれて減少し、最も少ないのは小学校6年生の243人となっています。死者に絞ると、最多は小学校1年生の28人で、最少は小学校6年生の5人となっています。

歩行中の交通事故については、死者・重傷者では小学校1年生は6年生の約3.6倍、死者に絞ると5.6倍に上ります。

図１　小学生の歩行中の交通事故（平成26年～30年）



小学校1年生になると行動範囲が広がり、子供だけで行動することが増えます。登下校を集団で行う場合でも、集合場所と自宅の往復は子供だけで歩くことがありますし、下校時に道草をしたくなることもあるでしょう。小学校1年生は、いわば自分一人で歩く「一人歩きデビュー」の時期でもあります。子供たちが交通ルールを身につけ、無事に一人歩きデビューできるようにするために、大人にできることは何でしょうか。

2. 事故防止のために子供に教えられることは?

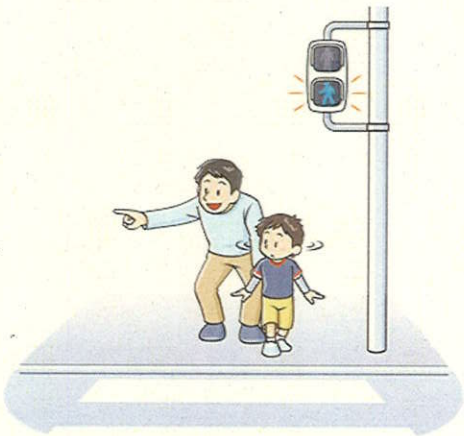
子供の視点に立って、安全な横断の仕方を教えましょう

小学校1年生が安全に道路を歩けるようになるためには、家庭でも交通安全教育を十分に行うことが重要です。子供が小学校に入る前から、また、小学校に入ってからも、通学路や公園など子供の行動範囲を一緒に歩きながら、繰り返し交通ルールや安全な歩き方を身に付けさせましょう。

◆安全な横断の仕方をしっかり教えましょう

小学校1年生の歩行中の交通事故は「横断中」に多く起こっています。子供が安全に道路を横断できるようにするために、次のことをしっかりと教えましょう。

- 横断歩道橋、横断歩道や信号機が近くにあるときは、そこまで行って横断すること
- 横断する前に、「必ず立ち止まる」「右左（みぎひだり）をよく見る」「車が止まっているのを確認する」こと
- 信号が青のときも、必ず右左を見て、車が止まっていることを確認してから横断すること
- 横断中も、右左を確認しながら歩くこと



青信号でも左右を確認

◆子供の目線で確認して教えましょう

子供と大人では目の高さが大きく異なります。大人ならば遠くまで見通せる場所でも、子供の目の高さからは見通せないことがあります。道路脇に止まった車、塀や生け垣、立て看板などがあればなおのこと。

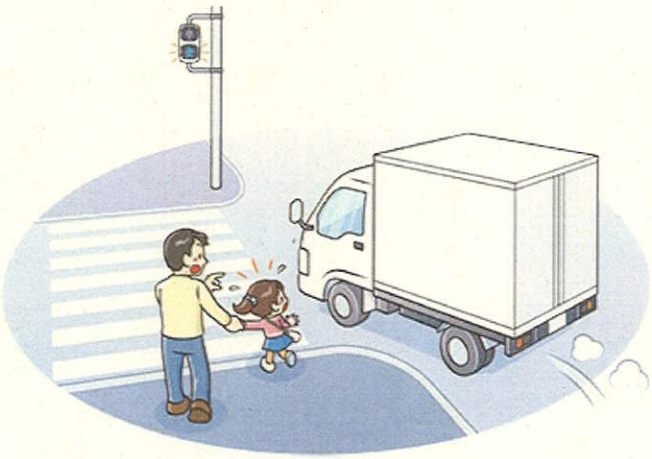
子供と一緒に通学路などを歩き、子供の視点から交差点や横断歩道、見通しの悪い場所などの危険箇所を確認して安全な歩き方を教えましょう。

例えばこんな場所では…

・ 交差点では

交差点では、信号が青のときでも、横断中に、左折・右折をする自動車が進行してきます。低学年の子供は身長が低いため、ドライバーから見えないことも。特にバスやトラックなどの大型車両では、子供が死角に入ってドライバーが気付かないため事故に巻き込まれる危険があります。

左右から来る自動車があることを教え、信号が青になってもすぐに渡らず、自動車が止まってから横断するよう教えましょう。また、信号が点滅しているときに走って渡ろうとすると、右・左折の車との関係で特に危険です。

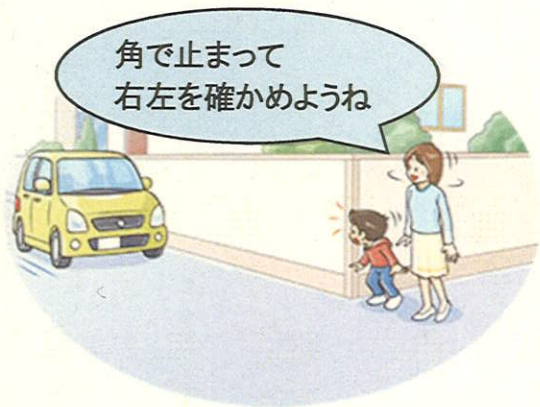


左折・右折の自動車に注意

・見通しの悪い交差点や曲がり角

見通しが悪い交差点や曲がり角では、急に車や自転車が飛び出してくることもあります。そのような場所では、立ち止まって右左を見たり、先に頭を出して見たりする動作も教えましょう。

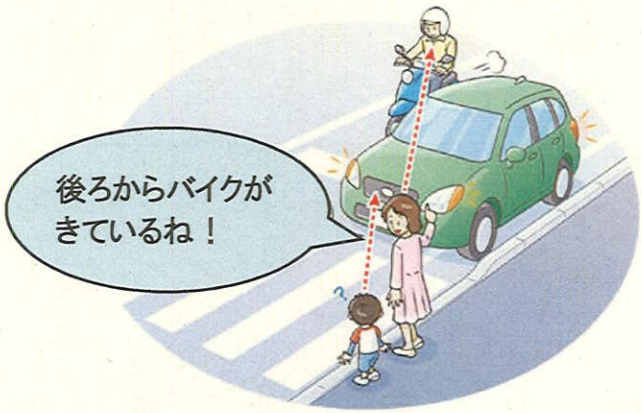
見通しの悪い交差点では…



止まって左右を確認

・車や看板で道路の向こうが見えないとき

駐車中の自動車や看板などで、向こうから来る自動車やバイク、自転車などが見えないことがあります。見えなくても近付いて来る自動車などに気を付けなくてはならないことを教えましょう。この場合も、先に頭だけを出して見てみる動作も教えましょう。



3. 事故防止のため大人ができることは?

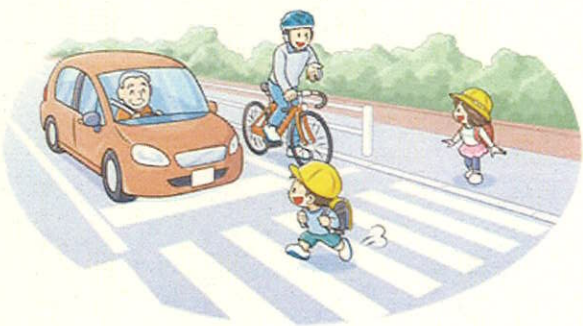
交通ルールの手本や他の通行者への思いやりを示しましょう

子供に交通事故防止を教えるためには、まず、周囲の大人がふだんからお手本を示すことが大切です。子供が見ているところで、信号を無視したり、横断歩道がすぐ近くにあるのに、違うところを横断したりしたことはありませんか。子供は大人の真似をします。子供が交通ルールを守って、安全に道路を歩けるようにするために、大人も交通ルールを再確認し、交通ルールを守りましょう。

また、自動車やバイク、自転車を運転する方が路上で子供を見かけたときは、子供は自動車などに気付かないものと考えて、運転者側が速度を落としたり、子供から間隔を開けたり、一時停止したりするなどの配慮をしましょう。

子供が道路を横断しようとしているときは、安全に横断できるよう一時停止し、渡り切るのを確認してからゆっくり発進しましょう。通学路や住宅街では、子供が急に飛び出してくることもありますので、速度を落として通行しましょう。信号のある交差点でも、子供を見かけたら飛び出してこないか確認してから発進しましょう。

特に、下校時は、学年ごとに行動が異なり、運転に当たっては目立ちにくいため気を付けましょう。



交通事故から大切な命を守るために、運転する方も、歩行者の方も、思いやりの気持ちをもって、子供たちの安全な歩行をサポートしましょう。

◆歩行者誘導のポイント

交通誘導をしていることを周囲に分かるようにして、交通事故から自分自身の身を守りましょう。

- 動きやすく、車からよく見える服装
- 車道上に出ない（自分自身の安全確保のため）
- 大きな動作で行い、車から見えやすいように旗を使う
- 信号のある場所はそれに従って誘導し、歩行者（自転車）用信号が点滅したら、横断させない
- 協力してくれた運転者に会釈するなど、感謝の気持ちを持つ

横断歩行者がいない時

通過車両の妨げにならない場所に立ち、周囲の車、歩行者等に気を配る。
右手で旗を持つ。

横断を止める時

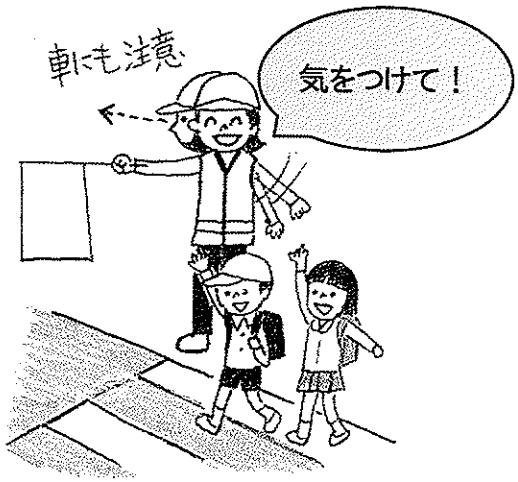
左手で歩行者を止め、旗は左手に添えるように車道と平行に上げる。
児童を集め渡りやすいように２～３列に並ばせる。

通過車両に歩行者がいることを知らせる時

左手で歩行者を止めたまま、車の流れや切れ目を見てゆっくりと旗を真上にあげる。
歩行者にはあわてず、車が止まるまで待つように誘導。

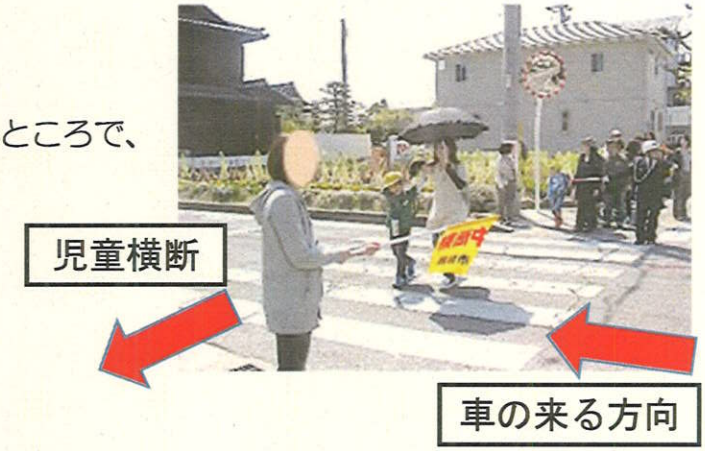
歩行者が横断する時

車がいない、または止まってから、旗を横断歩道と平行、または水平よりやや高い位置にして左手で歩行者に横断をうながす。
歩行者が渡りきるまで旗をさげない。



車に背中を向けてしまうと、前方不注意の車にひかれてしまう可能性があります。車の来る方向を向き、交通誘導していることを車にアピールしましょう。

- 車に背中を向けない
- 運転者や歩行者から姿がよく見えるところで、停止した車に対面する



参考1

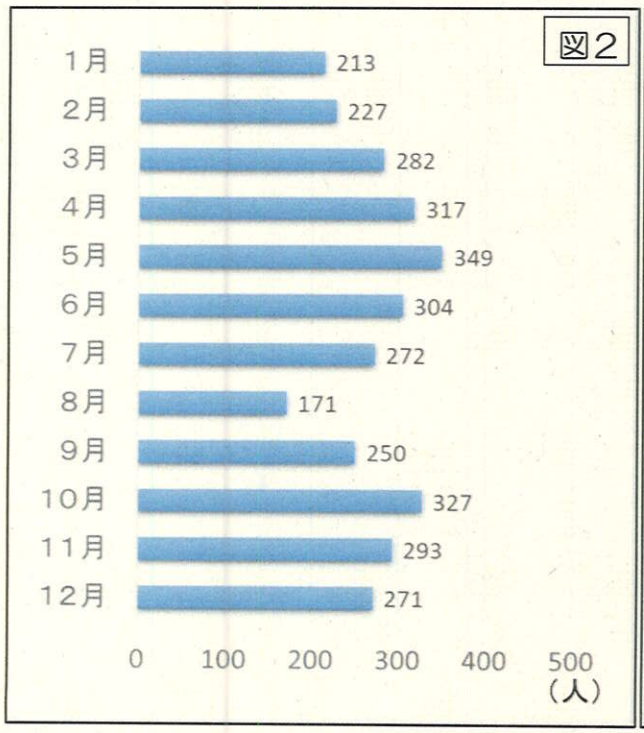
小学生の歩行中の事故　～全体の傾向～

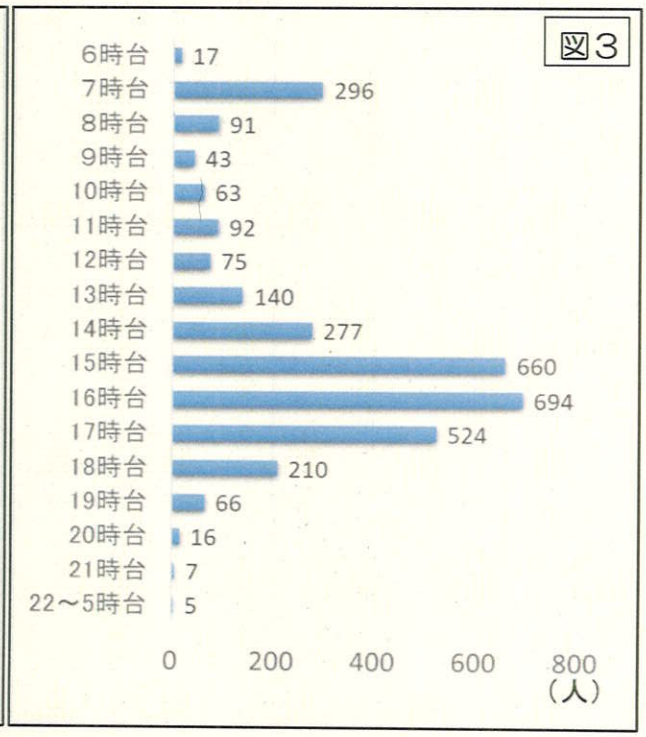
小学生全体の歩行中の交通事故について、発生した月や時間帯、子供が歩行していた目的ごとにみると、次のようになります。

※警察庁「歩行中児童の交通事故の特徴等について」をもとに作成しています

- 月別では「4月～7月」が多く、最多は5月（図2）
- 時間帯では「午前7時台」「午後3時台～5時台」が多く、最多は午後4時台（図3）

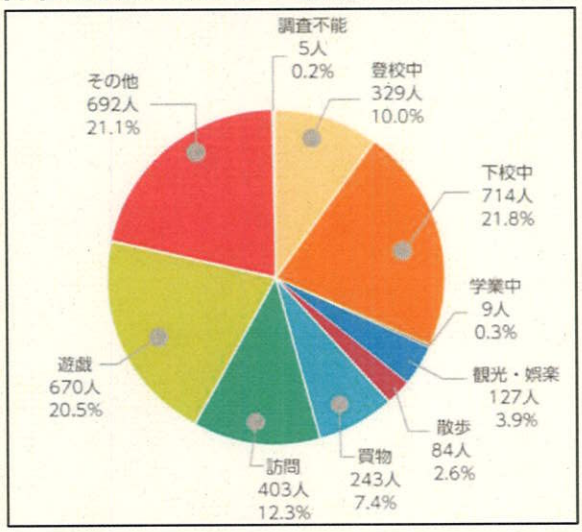
図2　月別、図3　時間帯別の死者・重傷者数（平成26年～30年）





・ 下校や遊び（遊戯、訪問）のために外出した際に事故が多い。最多は「下校中」（図４）

図４ 通行目的別の死者・重傷者数（平成26年～30年）



事故の多い場所では…

- 交差点内での衝突事故が最も多い
- 横断中の事故が最も多く、横断歩道でも発生している

子供がきちんと信号を守ったり、横断歩道を渡ったりするなど、交通ルールを守っていても、交差点で自動車が無理やり進入してきたり、右折や左折をしたりする際に、ドライバーが横断中の子供に気付かず、事故に至ってしまうケースも発生しています。ドライバーは、横断歩道手前における減速と横断歩道における歩行者優先を徹底してください。

参考２

道路を歩く時の合言葉「はひふへほ」

はしらない

ひろがらない

ふざけない

へんなひとについていかない

ほどうをあるく